

2026年度 第62回 「小島三郎記念文化賞」推薦依頼

拝啓 春暖の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本財団の活動に格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本事業は、元国立予防衛生研究所長故小島三郎博士のご遺徳を永く記念すべく、1965年（昭和40年）4月に創設され、その記念事業の一つとして「小島三郎記念文化賞」が設定されております。

本賞は、故小島三郎博士が広く関係をもたれていた病原微生物学、感染症学、公衆衛生学その他これらに関連した領域において学問的に顕著な業績をあげた方に贈呈するものであります。

つきましては、貴殿より次頁の審査規定をご参照の上、本賞受賞候補者のご推薦を賜りたくお願い申し上げます。

敬具

2026年3月吉日

公益財団法人 黒住医学研究振興財団

代表理事・理事長 渡邊 治雄



※公益財団法人 黒住医学研究振興財団の事務局は下記に移転しました。

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番 御茶ノ水ソラシティ 20階

TEL 03-5846-3504 FAX 03-5846-3514

URL <http://www.kmf.or.jp>

E-mail : info@kmf.or.jp

2026年度 第62回 「小島三郎記念文化賞」 審査規定

1. 本賞は、「小島三郎記念文化賞」と称する。
2. 本賞は、病原微生物学、感染症学、公衆衛生学その他これらに関連した領域において学問的に顕著な業績で、しかも我が国の文化に貢献したと考えられる、又は今後貢献すると期待される研究成果に対して贈るものである。
3. 審査の対象となる研究成果は、原則として近年の業績であり、かつ、評価の定まったものとする。
4. 本賞受賞候補者の審査は、本財団が委嘱した選考委員により構成される選考委員会がこれを行う。
5. 本賞受賞候補者の推薦は、本財団が関係領域の学識経験者に委嘱するのが原則とする。
6. 本賞の審査は、毎年1回行う。

附則

- (1) 推薦用紙は、本財団ホームページよりダウンロードしてご使用ください。(年度毎に改訂されますのでご注意ください。)
- (2) 推薦用紙とともに、論文別刷などの資料を同封してください。
- (3) 締切りは 2026年5月31日(日) 消印有効とします。
- (4) 発表は9月末日に本財団ホームページに掲載し、受賞者・推薦者にその旨を通知いたします。なお、贈呈式は2026年10月23日(金)です。
- (5) 送付先 (注) 財団事務局は2025年9月、下記に移転しました。

(切り取ってご使用ください)

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番

御茶ノ水ソラシティ 20階

公益財団法人 黒住医学研究振興財団 宛

本賞の第25回から第61回までの受賞者は次の方々です。

(第1回からの詳細は財団ホームページを参照願います。)

年 度	氏 名	所 属 機 関
第25回 1989年(平元)11月	29.五十嵐 章 博士	長崎大学熱帯医学研究所 教授
第26回 1990年(平2)11月	30.斎藤 和久 博士	国際医学情報センター 理事長
第27回 1991年(平3)11月	31.倉田 毅 博士	国立予防衛生研究所 病理部長
第28回 1992年(平4)11月	32.日野 茂男 博士	鳥取大学医学部ウイルス学 教授
第29回 1993年(平5)11月	33.小澤 敦 博士	東海大学医学部 特任教授
第30回 1994年(平6)11月	34.速水 正憲 博士	京都大学ウイルス研究所 教授
第31回 1995年(平7)11月	35.佐藤 勇治 博士 36.木村三生夫博士	前・国立予防衛生研究所細菌部 室長 東海大学名誉教授
第32回 1996年(平8)11月	37.宮村 達男 博士	国立予防衛生研究所ウイルス第2部長
第33回 1997年(平9)11月	38.相川 正道 博士 39.本田 武司 博士	東海大学総合医学研究所 教授 大阪大学微生物病研究所 教授
第34回 1998年(平10)10月	40.中村 信一 博士	金沢大学医学部医学科(微生物学) 教授
第35回 1999年(平11)10月	41.光山 正雄 博士	京都大学大学院医学研究科 教授
第36回 2000年(平12)10月	42.内山 竹彦 博士	東京女子医科大学微生物学免疫学 教授
第37回 2001年(平13)10月	43.尾身 茂 博士	WHO 西太平洋地域 事務局長
第38回 2002年(平14)10月	44.品川 森一 博士	帯広畜産大学公衆衛生学 教授
第39回 2003年(平15)10月	45.橋爪 壮 博士	(財)日本ポリオ研究所 理事長
第40回 2004年(平16)10月	46.山口 恵三 博士	東邦大学医学部微生物学講座 教授
第41回 2005年(平17)10月	47.渡邊 治雄 博士	国立感染症研究所 副所長
第42回 2006年(平18)10月	48.西山 幸廣 博士	名古屋大学大学院医学系研究科微生物・ 免疫学講座ウイルス学分野 教授
第43回 2007年(平19)10月	49.馬原 文彦 博士	馬原医院 院長
第44回 2008年(平20)10月	50.岡本 宏明 博士	自治医科大学感染・免疫学講座 ウイルス学部門 教授
第45回 2009年(平21)10月	51.伊藤 亮 博士	旭川医科大学医学部寄生虫学講座 教授
第46回 2010年(平22)10月	52.藤田 尚志 博士	京都大学 ウイルス研究所 教授
第47回 2011年(平23)10月	53.吉開 泰信 博士	九州大学生体防御医学研究所 教授
第48回 2012年(平24)10月	54.荒川 宜親 博士	名古屋大学大学院医学系研究科 教授
第49回 2013年(平25)10月	55.江崎 孝行 博士	岐阜大学大学院医学系研究科 教授

年 度	氏 名 ・ 所 属 機 関 ・ 業 績 題 目
第50回 2014年(平26)10月	56.中谷比呂樹 博士 世界保健機関(WHO)本部 事務局長補 医学博士 (業績の題目) 不健康と貧困の悪循環を断つための地球規模での 公衆衛生学的アプローチ
第51回 2015年(平27)10月	57.瀬谷 司 博士 北海道大学大学院医学研究科免疫学分野 教授 (業績の題目) 自然免疫の自己・非自己識別機構に関する研究
第52回 2016年(平28)10月	58.山崎 晶 博士 九州大学生体防御医学研究所感染ネットワーク 研究センター免疫制御学分野 教授 (業績の題目) 結核菌受容体群の発見と宿主免疫賦活化機構の解明
第53回 2017年(平29)10月	59.森 康子 博士 神戸大学大学院医学研究科附属感染症センタ ー臨床ウイルス学分野 教授 (業績の題目) ヒトヘルペスウイルス 6B 受容体の発見とウイルス 侵入機構の解明
第54回 2018年(平30)10月	60.川口 寧 博士 東京大学医科学研究所 ウイルス病態制御分野 副所長 / 教授 (業績の題目) 単純ヘルペスウイルスの増殖・病態発現機構の解明
第55回 2019年(令1)10月	61.竹田 誠 博士 国立感染症研究所ウイルス第三部 部長 (業績の題目) 急性呼吸器感染症ウイルスの病原性発現ならびに制 御に関する研究
第56回 2020年(令2)10月	該当者なし
第57回 2021年(令3)10月	62. 松岡 雅雄 博士 熊本大学大学院生命科学研究部 血液・膠原病・感染症内科学講座 教授 (業績の題目) ヒトT細胞白血病ウイルス1型の病原性発現機構 の解明
第58回 2022年(令4)10月	63. 山本 雅裕 博士 大阪大学微生物病研究所 感染機構研究部門 教授 (業績の題目) 病原性寄生虫と宿主免疫系の相互作用の解明
第59回 2023年(令5)10月	64. 佐藤 佳 博士 東京大学医科学研究所 感染・免疫部門 システムウイルス学分野 教授 (業績の題目) 新型コロナウイルス変異株の特性の解明
第60回 2024年(令6)10月	65. 原 英樹 博士 旭川医科大学医学部 感染症学講座 微生物学分野 教授 (業績の題目) 自然炎症を介した病原細菌感染症の重症化機構の解明
第61回 2025年(令7)10月	66. 植松 智 博士 大阪公立大学大学院医学研究科・教授 東京大学医科学研究所・特任教授 (業績の題目) 腸内細菌制御による革新的な疾患治療法の研究開発

所属機関長各位

2026 年度 研究助成のご案内について

拝啓 時下ますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。

平素は、本財団の活動に格別なるご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、ご承知の如く本財団は、研究助成事業と顕彰事業を 2 本の柱とする事業を展開しております。

このたび 2026 年度の研究助成事業として「臨床検査、衛生検査及びこれらに係る基礎医学に関する調査並びに研究」の領域でより優れた学術研究・業績テーマに対して研究助成を行います。また、2022 年度より本財団創立 30 周年を記念し、新たな対象領域として「感染危機管理」を設けており、これを継続しております。

早速ながら、本年度の研究助成金申請書をホームページに記載いたしましたので、ご多忙中のところ恐縮ではございますが、貴機関の関係者にご伝達の上、**2026 年 5 月 31 日 日曜日(当日消印)**までに、申請者ご自身から本財団宛に申請くださいますようお願いの程、ご案内かたがたお願い申し上げます。

敬具

2026 年 3 月吉日

公益財団法人 黒住医学研究振興財団

代表理事・理事長 渡邊 治雄



※財団事務所は 2025 年 9 月に下記住所に移転しました。

公益財団法人 黒住医学研究振興財団の事務局は
東京都千代田区神田駿河台 4 丁目 6 番
御茶ノ水ソラシティ 20 階
TEL 03-5846-3504 FAX 03-5846-3514
URL <http://www.kmf.or.jp> E-mail : info@kmf.or.jp

公益財団法人 黒住医学研究振興財団
2026年度 第34回 研究助成金募集要項

1. 研究助成事業の対象

研究助成は、臨床検査、衛生検査及びこれらに係る基礎医学に関する調査並びに研究で、より優れた学術研究・業績を研究助成事業の対象とし、若手の育成（原則として50歳以下）を主眼としています（詳細については本財団ホームページ「よくあるご質問」をご参照ください。）。

2. 応募資格

医学関連の大学及びその他の教育機関、研究所並びに医療機関等において、本研究助成事業の対象領域において調査、研究に積極的に取り組もうとする個人とします。

ただし、大学教授及び国公私立研究機関の部長並びにこれらに準ずる職位の方は除きます。

3. 対象領域

- | | | |
|---------|-------------|------------|
| ① 臨床化学 | ② 分子生物学（医学） | ③ 臨床微生物学 |
| ④ 臨床免疫学 | ⑤ 検査血液学 | ⑥ 人体病理学 |
| ⑦ 疫学注1 | ⑧ 一般・生理学 | ⑨ 感染危機管理注2 |

の9つの領域。注1：臨床検査・衛生検査についての集団(mass)を対象に扱う研究

注2：次なるパンデミック対応、バイオリスク管理、施設内感染防止、感染制御、マスギャザリング対策等

※申請した対象領域と異なる分野での審査が行われる可能性があります。

4. 募集期間

2026年3月15日（日）から2026年5月31日（日）までとします。

なお、郵送の場合は当日の消印まで有効です。

5. 研究助成件数及び研究助成額

研究助成額は、対象領域①～⑧は1件100万円を限度とし、助成件数は15件以上とします。

また、対象領域⑨は1件150万円を限度とし、助成件数は2件ないし3件とします。

6. 応募方法

所定の申請書に記入し、本財団 研究助成金選考委員会 宛に送付してください。

なお、提出部数は「原本と複写2部」の合計3部を送付してください。

（署名捺印に関して、自筆は私印（認印）、公印可。PC入力、ハンコは公印でお願いします。）

☆申請書は必ず公益財団法人黒住医学研究振興財団のホームページからファイルをダウンロードしてご使用ください（年度毎に改訂されますのでご注意ください。）。

URL <http://www.kmf.or.jp/>

7. 審査方法及び通知

本財団の委嘱する審査委員が9つの対象領域ごとに審査したあと、選考委員会で選考審査を行い、理事会で研究助成の対象を決定します。その結果は、9月末日に本財団ホームページに掲載し、受贈者にその旨を通知いたします。

8. 研究助成金の贈呈

2026年10月23日(金)の小島三郎記念文化賞贈呈式にあわせて、研究助成金を贈呈する予定です。

9. 受贈者の研究助成金受領後の義務

以下の事項を研究助成金受領後(贈呈式後)、1年以内に本財団事務局へ提出していただきます。

① 研究期間は、原則として研究助成金受領後1年間とし、その研究結果について本財団指定様式にて2,000字以内で報告書を作成すること。1年間で終了しない場合は、中間報告として研究・会計報告書を作成すること。

(報告書は年報・本財団ホームページ・研究業績集に掲載させていただきます。)

② 会計報告については本財団指定様式にて作成すること。

なお、受贈者が研究結果を発表する口頭発表論文発表等には本財団の研究助成を受けた旨の附記(英字表記の場合は、「KUROZUMI MEDICAL FOUNDATION」)を必ずしてください。

※「研究報告書」の本財団事務局への提出が確認できない場合には、当該研究課題について贈呈した研究助成金の贈呈決定を取り消し、受領した助成金の返還を求めるとともに、所属する研究機関の名称等の情報を公表する場合があります。

10. 申請書類の提出先(提出先が変更となりました。)

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台4丁目6番 御茶ノ水ソラシティ 20階

公益財団法人 黒住医学研究振興財団 研究助成金選考委員会 宛

(問い合わせ先)

公益財団法人 黒住医学研究振興財団 事務局

TEL 03-5846-3504

FAX 03-5846-3514

E-mail info@kmf.or.jp

附記

- 所属機関長は、大学長、研究所長、病院長及びそれに相当する職域の長であることが必要となります。
- 応募の書類は、一切返却いたしません。
- 贈呈される助成金には、大学等の間接経費(事務処理経費)は含みません。

第 33 回研究助成金贈呈者の研究課題一覧 (2025 年度) 参考

氏 名	所 属	研 究 課 題	選考対象
出居真由美	順天堂大学医学部 臨床検査医学講座 准教授 医学博士	JSCC 法で AST・ALT が正常～低値例における IFCC 法測定の有用性	臨床 化学
白上 洋平	岐阜大学医学部附属病院 検査部 副部長 第一内科/講師 医学博士	肝がん新規バイオマーカーMYCN の機能解析と臨床検査法確立	臨床 免疫学
畑山 祐輝	鳥取大学医学部附属病院 検査部 主任臨床検査技師 医学博士	急性骨髄性白血病の新規バイオマーカーとしての Vault RNA の可能性	分子 生物学
西岡 光昭	山口大学医学部附属病院 検査部 臨床検査技師長 医学博士	大腸癌関連 long non-coding RNA プロモーター領域のメチル化を標的とした便スクリーニング検査の実用化に向けた研究	分子 生物学
柿田 徹也	沖縄県衛生環境研究所 感染症研究センター主任研究員 獣医学博士	病原性レプトスピラ血清群特異的リアルタイム PCR の開発	臨床微生 物学
武井 理美	順天堂大学医学部 臨床検査医学講座 助教 医学博士	質量分析法 MALDI-TOF MS を用いた希少および培養困難菌の同定方法の確立	臨床微生 物学
萩原 秀	東京大学医学部附属病院 感染制御部 微生物検査室 臨床検査技師	肺炎球菌以外の Mitis group streptococci の簡易的同定系の確立とその保有病原因子の網羅的解析	臨床微生 物学
佐賀由美子	富山県衛生研究所 ウイルス部 主任研究員	新規開発高感度・同時検出 PCR 法を用いたダニ媒介感染症の後方視的研究	臨床微生 物学
片桐 孝和	金沢大学大学院医薬保学総合研究科 病態検査学講座 准教授 保健学博士	自己免疫性骨髄不全におけるプレジジョン医療開発に向けた先制的臨床検査の実装～新規フローサイトメトリー解析法の開発～	臨床 免疫学
田中ゆきえ	東京科学大学大学院医歯学総合研究科 微生物・感染免疫解析学分野 准教授 医学博士	CAR-T 療法の有用性および副作用リスク予測のための腸管免疫・細菌叢の解明と免疫プロファイリング基盤の構築	臨床 免疫学
徳永 尚樹	川島病院 診療技術部 検体検査技術科 科長 臨床検査技師	血液透析患者のバスキュラーアクセスにおける血流速度と後天性フォンヴィレブランド症候群の関連性の解明	検査 血液学
酒井 康弘	浜松医科大学医学部医学科 腫瘍病理学講座 准教授 医学博士	DSS1・PCID2 を用いた新規 PARP 阻害剤コンパニオン診断法の基礎的検討	人体 病理学
朝比奈 彩	静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科 社会健康医学専攻 博士後期課程	日本人地域住民における、末梢血中 Y 染色体モザイク喪失の疫学調査、ならびに総死亡や循環器疾患発症との関連解明	疫 学
林 泰志	東京都立小児総合医療センター 血液・腫瘍科 医員	小児造血幹細胞移植後患者における水痘・帯状疱疹ウイルス感染症の疫学	疫 学
前田 圭介	藤田医科大学 医療科学部 臨床教育連携ユニット 生体機能解析学分野 講師 医療科学博士	発達性てんかん性脳症の精神運動発達遅滞を捉える脳波バイオマーカーの開発	一般・ 生理学
渡辺 直樹	亀田総合病院 臨床検査部 副主任 保健学博士	高病性肺炎桿菌による菌血症の重症化リスクと分子疫学の解明	感染危機 管理
森田 未香	富山大学附属病院 検査・輸血細胞治療部 副臨床検査技師長 保健衛生学博士	院内細菌タイピングへのフリーエ交換赤外分光法導入に向けた実現可能性の検証	感染危機 管理
加藤 博史	国立感染症研究所 応用疫学研究センター 主任研究員 医学博士	次なるパンデミックに向けた、エムボックスの臨床免疫学的解析と核酸増幅臨床現場即時検査の開発	感染危機 管理

総申請者数 215 名

研究助成金総額 1,800 万円(18 名)